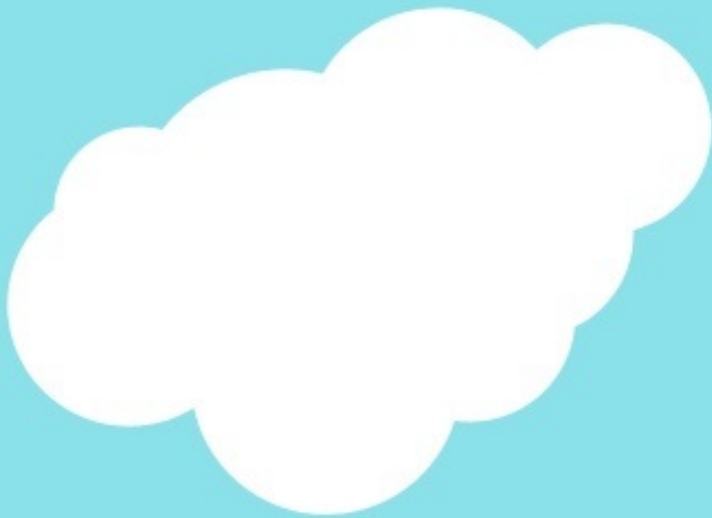




# たれ学講義



※「たればんだ」はサンエックス株式会社のキャラクターです。

なお、本テキストは「たればんだ」を誹謗中傷するものではありません。

### 1. たれ学とは

近年「たればんだ」がはやっている。単なるかわいいキャラクタだと思われていたが、近年、「たればんだ」を受け取った人間自体が「たれ」てしまうという、「たれ効果」の存在が確認された。

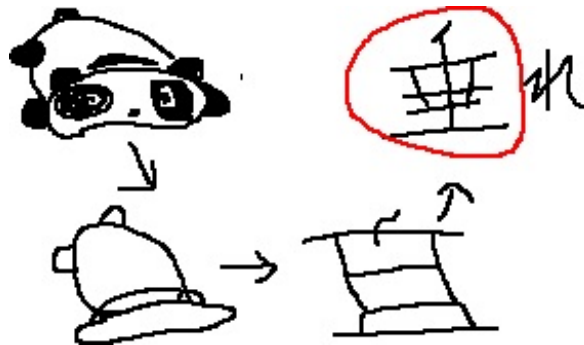
「たれ効果」とは、すなわち、「たればんだ」のたれた様子を見続けることにより、自分がたれてしまう（つまり、何もやる気にならずだらんとしてしまう）という現象である。それだけでなく、「たれ」てしまった人間と一緒にいるだけで、その人までたれてしまうという感染性を持っている。この「たれ効果」の影響を止める（あるいは促進する）ための学問が「たれ学」である。



## 2. たれとは

「たれ」とは、そもそも人間ののんびりした部分の俗称であり、「垂れ」から来ることは想像に難くない。このことから分かるように、「たれ」ということはつまり、何もしないでただらするということである。したがって、「たれ」た状態（以下、「たれ状態」）にある人間は、やる気のない駄目な人間であると一般には見られる。しかし、古来、この「たれ状態」は、あらゆる人間の幸せの根元であった。昔から、働くのはのんびりとした生活をするためであり、そのために働き、富を得る。富を得てのんびりすることができるようになると、幸せな状態に陥ることができる。つまり、言い換えると、人間は「たれ状態」を、求めて生きているのである。

ここで、近年は「たれ状態」よりも何か夢中になれるものがある方が幸せだと感じる人が多い。しかし、これは本来の幸せではない。夢中になれることがあるという幸せは、何か自分を作り上げたい、そして自分の価値や社会的地位を得たい、という欲望からくる満足感であり、偽りの幸せである。このような欲さえも捨てた、本質的な幸せ状態が「たれ状態」なのである。



「たれ効果」とは、まさしくこの点につけ込まれたような効果である。すなわち、「たれ状態」の幸せを知ることでもはや「たれ状態」からぬけ出せなくなり、更にそれが感染するわけである。

仮に、世界中の人間が「たれ状態」に陥った場合、誰もが何もしなくなり、いずれ世界は滅亡するであろう。すなわち、たれ学講義は世界を救うための学問でもある。

## 3. 「たれ効果」とは

「たれ効果」とは、その名称からも分かるとおり、モノをたれさせる効果である。このような効果があるはずはないと思う人がいるだろう。しかし、この効果は 以外と身近にも存在する。例えば自分が何かやる気になっているときに、周りにただらしている人がいるとやる気をなくすることがあるだろう。これは「たれ効果」の一種である。つまり、自分がその人から「たれ効果」を受け、自分のやる気がなくなった（つまり、たれた）ということである。他にも、あくびの伝染なども、「たれ効果」の一種と考えられる。また逆に、これから勉強しようとしたときに、親

に勉強しろと言われてやる気をなくすこともあるだろう。これもまた、「たれ効果」の一種である。

(なお専門的にはそれぞれ、前者は「たれ状態」のモノから「たれ効果」を受けたという意味で「同方向性たれ効果」、後者は「たれ状態」でないモノから「たれ効果」を受けたという意味で「逆方向性たれ効果」と呼ぶことがある。)

このように我々は、様々なところで「たれ効果」を受けている。

#### 4. 「たれ効果」の応用例

現在の環境では、「たれ効果」のようにやる気をなくすための学問（実際にはそうではないのだが）が非難されるのは当然のことである。しかし、こういった状況であるからこそ、やる気をなくす、ということは大変重要なこととなっている。ここでは、例を挙げてこれについて説明する。

##### 4. 1 過労死の防止

現在の社会では、過労死、というモノがある。そのとおり、働きすぎて死ぬということである。少なくとも経済的には昔と比べてずいぶん豊かになった現在の日本でそこまで働き過ぎなくても良いのではないかと思うが、仕事を失ったときの生活、家族、そして何より今まで働いてきた事によって作り上げた自分の価値をなくすかも知れないという不安から、どうしても働くことをやめられない人はたくさんいる。

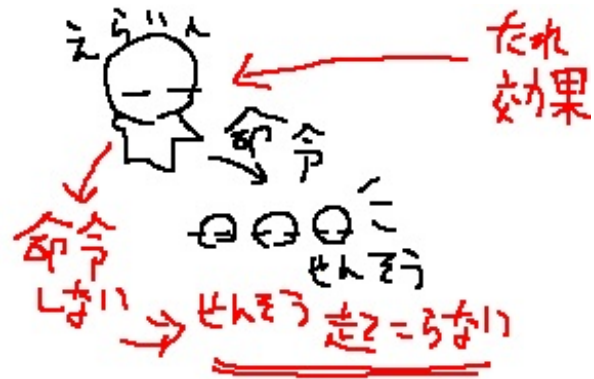
こういった状況において、「たれ効果」を利用することができれば、仕事をやる気がなくなり、過労死する人も減っていくであろう。

##### 4. 2 犯罪

近年、特に若い人たちによる犯罪が増えている。これは、やる気がないために犯罪を犯す、という意味で少し難しいモノがある。つまり、「たれ効果」によりますますやる気がなくなり、犯罪が増えるのではないかということである。しかし、「犯罪を犯す」ということのやる気をなくすために「たれ効果」を上手く利用することができれば、犯罪は減少し、国の治安も良くなるだろう。

##### 4. 3 戦争

人間は争うことによって成長する面もあるが、戦争のように人を殺し合うという意味で争うのはおろかである。確かに何かを信じて、そして何かを守るために実際に戦地で戦ってきた人まで非難する気はない（むしろそういう人はある意味では偉い人だと思う）。しかし、自分は戦地に赴かないくせに戦争の命令を出すような人がいるのは周知の事実である。そうした馬鹿な人たちがいなければ戦争など起こらないのだが、完璧な人間いないという事実からも、馬鹿な人がいないという状況を求めるのには無理がある。そこで、こうした人たちに「たれ効果」を利用することによって、世界から戦争を無くすことができる。



このように3つの例を挙げたが、これ以外にも様々な効果が期待できる。さらに、本来「たれ学」は、やる気を無くすためだけでなく、人がやる気を無くしている原因を究明し、その人が受けている「たれ効果」を制御することによってやる気を出させる、といったことも目的の一つであり、これを考えると、「たれ学」は様々な面での応用ができることだろう。

## 5. 最後に

「たれ」に関する研究にはまだまだ未開拓の土地がたくさんある。研究者も少なく、現在の研究は「たれ」の歴史、原因、等の研究にとどまり、「たれ効果」の本来についてはまだまだ明らかにされていない。人類のためにも、今後の「たれ」に関する研究の更なる発展が望まれる。